

〔物類稱呼二物〕鮒條魚。どろめ。大坂にてどろめと云、筑紫にてゑろうと呼、土佐國にてどろめざ。こといふ。

此魚三月海より川水に上るを築にて是を捕、長三寸、江戸に云白魚より小也、其潔白なる白魚に相同じ、氷魚と呼も又是に似て、近江の湖水、宇治の田上などに産する物也。

〔東雅鱗介〕鮒魚シロヲ○中  
廣雅に據るに、鮒は鰐也、即説苑にいふ所の肉薄而不美者、漢語抄にいふ所は、鱠殘魚に似て小しきなる銀魚といふもの、即今シロイヲといふものに似たる也、又考聲切韻を引て、鮒はコホリイヲ。小魚名也、似鮒魚長一二寸者也、今按俗言氷魚是也と注せしは、亦俗にイサ、といふ者之類なり、シロヲとは白魚也、コホリイヲとは氷魚也、イサ、といふは、イハ發語の詞也、サ、は小小也、鮒魚は長六七寸の者と見えたり、サ此にいふシロヲなるべしとは見えず、即今シロイヲといひて、鹹淡水の間に生ずるもの、大なるものも僅に三四寸には過ぎず、サ即是江陰常熟等志に、銀魚似鱠殘魚小者と見えしもの、舜水朱氏も此にいふシロイヲは、即銀魚也と長いひき、東壁本草閩志等の如きは、銀魚は鱠殘魚の一名となしけり、爾雅翼に據るに、鱠殘魚は長五六寸、身圓如筈、漂白無鱗、但目點黒と見えたれば、此にあるものにはあらず、朱舜水も此にシロイヲといふもの、大なるは長七八寸なるもあるなりといひき、江陰常熟等志に見えし所は、鱠殘魚銀魚大小各別れしものとなして、本草閩志の一物也とせし如くにはあらず。

〔本朝食鑑九〕江海無鱗鮒呂訓三志

集解、白魚者、氷魚之大也、生江河之中、大者三四寸、全體潔白如銀無鱗、如冰玉之磨成、但目有兩黑點爾、及春子滿腹而味殊美、春後子出而瘦、此亦聚罇之間、漁擁罇舟于中流、燒炬則魚見火而聚、亦舉罇采之、凡氷魚者、白魚之子、白魚至春上河、二三月之際生子、于水草沙石間、其子長爲氷魚、至于江海、又長爲白魚者也、或問予○平野必大曰、水魚長于河而入海、則河魚也、故自古以宇治田上川爲有處、然今何入江海部、予曰、魚得鹹水而長育者多、即氷魚之類是也、既得鹹水而長大爲白魚、故江海采之、鹹水者、潮則入江海部、而可也、若年魚、鮭魚亦上河生子而下、然不采江海、則河魚也、宇治田上皆大川也、流下入難波江、則白魚逆流上于宇治田上、而生氷魚者哉、白魚乾曝者亦賞美、四方貨之、伊